



News Release

2020年12月24日
NITE（ナイト）
独立行政法人製品評価技術基盤機構
北海道支所

テレワークで大混雑 ～プラグ・コードの取り扱いに注意～

1. 事故の発生状況

2015年度から2019年度の5年間にNITE（ナイト）に通知された製品事故情報^{※1}のうち、配線器具の事故（テーブルタップ・延長コードなど）・電源プラグ・電源コードによる事故は北海道で合計15件^{※2}ありました。

(1) 年度別事故発生件数

年度別事故発生件数を表1に示します。

表1 年度別事故発生件数（2015～2019年度）

発生年度	合計
2015年度	7
2016年度	1
2017年度	2
2018年度	4
2019年度	1
合計	15

(2) 被害状況別事故発生件数

被害状況別事故発生件数を表2に示します。

表2 被害状況別事故発生件数（2015～2019年度）^{※3}

被害状況		合計
人的被害	死亡	0
	重傷	0
	軽傷	0
物的被害	拡大被害	13
	製品破損	2
被害なし		0
合計		15

- (※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含める。
- (※2) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。
- (※3) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 主な事故事例

配線器具（コードリール）

○2018年11月（北海道、年齢不明、男性、使用期間不明、拡大被害）

事故内容：使用中のコードリール付近から出火し、建物を半焼した。

事故原因：コードリールのコードがほとんど巻き取られた状態で、巻き取り時の定格電流値を超える電気製品を接続して使用したため、コードが異常発熱して短絡・スパークが生じ、焼損したものと推定される。

3. 配線器具類の事故を防ぐポイント

- ①コードリールは、電源コードを全て引き出して使用するものと、電源コードを引き出した状態と収納した状態とで接続可能な最大消費電力が異なるものがあるので、使用するときは確認する。
- ②電源プラグ及び電源タップは水分やほこりが付着しないように掃除する。
- ③電源コードを引っ張る、机や椅子の脚で踏むなど、無理に力を加えない。
- ④接続可能な最大消費電力を超えて使用しない。
- ⑤異臭や変色など、事故の予兆を見逃がさない。

4. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITEのロゴ」としてください。

（本件に関する問い合わせ先）

〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2丁目

札幌第1合同庁舎 4階

独立行政法人製品評価技術基盤機構 北海道支所

担当者：鈴木、下川

電話：011-709-2324